

第一講 講義の背景

レポート課題：歴史ドラマ（映画。小説）と歴史学の違いは何か？

西洋史研究における大きな変革と潮流

1990年前後の変化

東西冷戦の終了（1989年 マルタ島会談 ゴルバチョフとブッシュ）

ソ連の消滅（1991年）

世界経済に占める西欧の割合の低下と旧植民地補国の台頭

多民族・多文化状況

↓

楽観的な進歩史観への不信

国民国家の人為性の発見

近代に対する批判

↓

国民国家を枠組みとする歴史の問題点

政治史から社会史へ

社会史から文化史へ

西洋古代史研究の現状と流れ

現代歴史学研究の現状と流れと連動している

西洋古代史研究もまたこの大きな状況の在り方と変化とは決して無縁ではない。

近代国家のギリシアとイタリアの国境が古代史研究の枠組みとなっていないか

市民団の閉鎖性を古代ギリシアの特徴としているが、日本の国籍法をみると現代国家も閉鎖的ではないのか？

市民と非市民、ギリシアとペルシアの対立と排除の関係よりも、ミレトスのようにそれぞれの相互浸透性に注目することも重要ではないのか？

「スパルタカス」(1960年)

原作 ハワード・ファスト

監督 スタンリー・キューブリック

主演 カーク・ダグラス

アメリカ人好みのストーリーに

圧政と抑圧に対する自由への抵抗と家族愛

何よりも成功物語(妻と子の解放の達成)

2011年3月の古代史研究会での議論

古代ローマをイメージさせるのに適切

描かれているのは古代ローマとは何の関係もない

歴史教育に役に立たない

歴史学・文化史学が成立するために

創作されたストーリーは史実ではない

歴史学が基礎とするのは事実

事実を確定する作業が必要・・・史料批判

事実だけでは歴史にはならない

歴史にはストーリーが必要

構想力の問題